



# アウシュビッツ・ビルケナウ

その歴史と今

# 目次

|                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| <b>アウシュビッツ収容所が設立される前に</b>         | <b>3</b>  |
| ナチスの思想                            | 3         |
| 第二次世界大戦の勃発                        | 3         |
| ナチス・ドイツの強制収容所                     | 4         |
| <b>アウシュビッツ 1940～45年／収容所史の概要</b>   | <b>4</b>  |
| 収容所の設立                            | 4         |
| その周辺の住民の強制退去                      | 5         |
| 収容所の拡大                            | 6         |
| アウシュビッツの副収容所                      | 7         |
| 外部からの隔離                           | 7         |
| 収容所内及びその周辺におけるレジスタンス              | 7         |
| 強制収容所としてのアウシュビッツ                  | 8         |
| ユダヤ人絶滅センターとしてのアウシュビッツ             | 9         |
| 収容所の開放                            | 12        |
| アウシュビッツの犠牲者数（推定）                  | 12        |
| <b>国立アウシュビッツ・ビルケナウ博物館と記憶の場の設立</b> | <b>13</b> |
| 始まり                               | 13        |
| 設立                                | 13        |
| 敷地                                | 14        |
| 維持費                               | 14        |
| 国際アウシュビッツ委員会                      | 15        |
| アウシュビッツ・ホロコースト教育センター委員会           | 15        |
| <b>博物館の活動について</b>                 | <b>16</b> |
| 遺品                                | 17        |
| アーカイブ                             | 17        |
| 元囚人との交流                           | 18        |
| デジタル・データバンク                       | 19        |
| 図書室                               | 19        |
| 物件の保護・修復                          | 20        |
| 修復作業室                             | 20        |
| アウシュビッツ収容所史の研究とその解析               | 20        |
| <b>展示とその記憶の保護について</b>             | <b>22</b> |
| 元アウシュビッツ1号収容所での常設展                | 22        |
| アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の保護             | 23        |
| 国別展示                              | 23        |
| 定期展示と巡回展示                         | 24        |
| 出版部                               | 24        |
| インターネット                           | 25        |
| <b>教育活動について</b>                   | <b>25</b> |
| アウシュビッツ収容所とホロコーストに関する国際教育センター     | 25        |
| <b>アウシュビッツ絶滅収容所跡の見学</b>           | <b>26</b> |
| 開館時間                              | 27        |
| 見学のための一般情報                        | 27        |
| アウシュビッツ1号収容所跡                     | 28        |
| アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所跡               | 28        |
| ガイド                               | 28        |
| ガイドブック                            | 28        |
| 記録映画                              | 29        |
| アウシュビッツ1号・2号間の移動について              | 29        |
| 博物館の住所                            | 29        |
| <b>アウシュビッツ収容所史・年表</b>             | <b>30</b> |

# アウシュビッツ 収容所が設立される前に

「ユダヤ人は完全に絶滅させなければならない人種である」

ナチス・ドイツによって占領されたポーランドでのハンス・フランク総督の言葉

「我々はドイツ国民をポーランド人・ロシア人・ユダヤ人とジプシーから解放しなければならない」

オット・ティラックドイツ第三帝国法務大臣の言葉

「最も重要な課題はポーランドの指導者全員を痛め付けるために彼らを探し出すことだ。ポーランド人の専門家全員を我がナチス・ドイツの軍事産業で利用する。その後ポーランド人全員がこの世から消える。」

ハインリッヒ・ヒムラー、SS最高司令官の言葉

## ナチスの思想

ナチスの思想の根本には、反ユダヤ主義・反民主主義・反共産主義とドイツ民族の優越がありました。また「人種的に純粋」な社会を築こうとし、ナチス・ドイツはユダヤ人の絶滅そしてスラブ人とジプシーとその他の民族の絶滅を計画していたのです。

ポーランドへの侵攻による第二次世界大戦勃発の目的の一つに

は、ドイツ人が移住するためのドイツ領の拡大がありました。

1937年にドイツ第三帝国の権力者と1933年にドイツ政権を執ったNSDAPの設立者であったアドルフ・ヒットラーは次のように語りました。

「我々の戦争目的は、人を勝ち取るのではなく、農業に適する領域を勝ち取ることにある。」



写真：ハインリッヒ・ヒムラー

1937年にニュルンベルクで開催されたナチ党大会。「全世界が恐れる青少年たちを育てよう。私は暴力をふるい傲慢かつ強固で残酷な若者を望んでいる」と宣言し、ナチスの青少年団員（ヒトラーユーゲント）に挨拶するヒットラー

## 第二次世界大戦の勃発

1939年9月1日にドイツ軍が、又17日にはソ連軍がポーランドに攻め込み全国を占領した後ポーランドは分割されました。そしてオシフェンチム市を含むポーランドの一部はドイツ領となったのです。中央ポーランドは完全にドイツの支配下となり、ドイツの行政によって運営される総督管

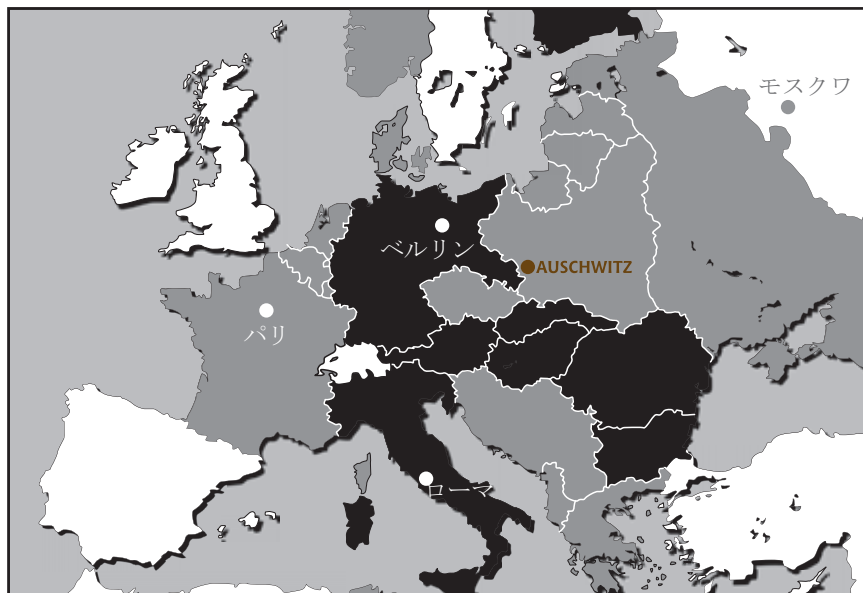
区が作られました。1939年8月にはドイツとソ連の協定で東部ポーランドはソ連に占領されました。しかし1941年6月にドイツとソ連の戦争が始まり、結局その後それらの領土もドイツに占領されたのです。

1940年4月になるとドイツはデンマークとノルウェー

を、5月にはベルギー、オランダ、ルクセンブルグとフランスを攻撃しました。また1941年4月にドイツはユーゴスラビアとギリシャに攻め込み、同年6月には同盟国であったソ連を攻撃しました。そして1941年秋にはヨーロッパの殆どがドイツに占領されたのです。



アウシュビッツ収容所はナチス・ドイツ占領下にあったヨーロッパの中心に位置していた。ドイツ第三帝国とその衛星国は黒、第二次世界大戦中にドイツの占領・支配下にあった国々は灰色で印された。国境線は1939年以前のものである



## ナチス・ドイツの強制収容所

ドイツで強制収容所は既に1933年から建設されていました。そこには「不必要な人材」と見做された人々が収容されていたのです。それはナチス政権に反対していた人々、刑事犯そしてユダヤ人などでした。そして第二次世界大戦の勃

発後、ドイツは占領した国にも収容所を造り始めました。

強制収容所であるアウシュビッツ（ドイツ語 Konzentrationslager Auschwitz、略してKL Auschwitz）は、ナチス・ドイツ管理下のその他の収容所と同じ国立の施設であ

り、ドイツ国家の中央行政により運営されていました。収容所はSS中央経済・行政庁によって管理されていましたが、収容所に人々を送り込むそして殺害する責任はドイツ第三帝国中央安保庁にあったのです。

# アウシュビッツ1940～45年・収容所史の概要

## 収容所の設立

ナチス・ドイツの強制収容所であるアウシュビッツは、世界でホロコースト、大量虐殺、暴力の象徴になりました。この収容所はドイツ領にされたポーランドのオシフィエンチム市郊外に、1940年にドイツによって設立されました。そのためオシフィエンチム市はドイツ語のアウシュビッツという地名に変更され、それが収容所で有名な地となり、つまり強制収容所の名にもなったのです。

また収容所建設の直接的な理由は、ドイツの警察によって非常に多くのポーランド人が逮捕されそれぞれの刑務所が囚人で溢れていたことにありました。アウシュビッツも完成当時は他と同様、1930年代から作られていたナチス・ドイツのテロシステムの多くの収容所の一つとして考えられていました。そして開放までその役割を果たしていました。しかし1942年からは徐々に最大のユ

ダヤ人絶滅センターとなっていたのです。

強制収容所であるアウシュビッツの守備隊はSS（ナチス親衛隊）のメンバーで成り立っていました。それはエリート部隊の親衛隊として作られ、当初の役目はナチ党大会の警備でした。しかし時間と共に第三帝国でSSの役割は大きく拡大しました。SSは中央行政・警察と軍隊の多くの業務を引き受け、収容

アウシュビッツ収容所はドイツ領とされたポーランドのオシフィエンチム市郊外に、1940年にドイツによって設立されました。そのためオシフィエンチム市はドイツ語のアウシュビッツという地名に変更され、それが収容所で有名な地となり、つまり強制収容所の名にもなったのです。

写真：SS隊員



アウシュビッツ収容所のSS(ナチス親衛隊)。収容所が存在した期間に送り込まれたSS隊員は8000人を超えた

所の保護部隊もしていました。

SS隊員は収容所の幹部でありその見張り部隊もしていました。そしてユダヤ人絶滅作業にも参加し四人の死刑も執行していました。最初アウシュビッツ収容所のSS隊員はドイツ人だけでしたが、

その後特別なドイツ国民名簿が作られ、ドイツ系であることを証明できる人々も隊員になれるようになりました。そしてアウシュビッツ収容所が存在していた間には、SS隊員の男女8000人もそこで任務に就いていました。

写真：撮影者不明



タルヌフ。ドイツ人に監視され、アウシュビッツ収容所へ移送される直前のポーランド人の政治犯。1940年6月14日にタルヌフ刑務所から初移送が行われた

## その周辺の住民の強制退去

1940～41年にナチス・ドイツは、収容所が建てられたオシフェンチム市の地区の住民とその周りの8村の住民を強制退去させました。又戦前のオシフェンチム市民の60%を占めたユダヤ人全員は各方面のユダヤ人ゲッターに連行され、多くのポーランド人は強制労働者としてドイツ本国に連行されました。そして市内とその周辺にあった1200の家屋は破壊されました。収容所の周りには、収容所を技術的にバックアップしていた倉庫、仕事場、事務所そしてSSの宿舎ができました。強制退

去させられた人々の家の一部は、SSの家族全員と一緒にそこに滞在していた将校、そしてそこに移住してきたドイツ人家族、警察の職員と役人が使っていました。戦前その地域にあった工場はドイツ人が奪い、その一部を拡大し一部を閉鎖しました。又その多くはドイツ第三帝国の軍事産業と関係のある工場に編成されました。そしてその中で特に大きな化学企業IGファルベンインダストリーの強制労働者として約1万1000人（主にポーランド人で、ロシア人そしてフランス人も含む）が連行されました。

写真：撮影者不明



収容所周辺から強制退去させられる現地住民。戦中の写真



## 収容所の拡大



写真：撮影者不明

1941年4月。ドイツ人がオシフィエンチムに住んでいるユダヤ人を強制退去させる。戦前人口1万2000人の町には、7000人のユダヤ人が住んでいた



写真：SS隊員、1943年

収容所の偽シャワー室建設の様子。その木の間には第4・第5死体焼却場のガス室と焼却炉が見える

収容所はナチス・ドイツの占領下となっていたヨーロッパのほぼ真ん中に位置し、交通の便も良く、そのことは収容所がさらに拡大され殆ど全てのヨーロッパ各地からの人々がここに連行された理由となりました。そしてアウシュビッツが最大となった時には、次の主な3ヶ所から成り立っていました。

- ・ 最初に建てられて1番古かったのはアウシュビッツ1号（本収容所とも呼ばれ収容者数は1万2000から2万人）。これは元ポーランド軍の基地内そしてその建物内に1940年中頃造られました。時間と共にそれらはさらに拡大されていきました。
- ・ 2番目はアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所で、3ヶ所の中で最大でした（1944年に収容者数は9万人に上りました）。その建設は1941年秋に始まり、場所は本収容所から3km離れたブジェジンカ村に

ありました。そしてそこに住んでいたポーランド人住民は強制退去させられ家屋が解体されました。ビルケナウ収容所にはナチス・ドイツ占領下のヨーロッパにおける最大の絶滅施設であるガス室が造られ、そこでは連行されてきた殆どのユダヤ人が毒殺されました。

- ・ 3番目はアウシュビッツ3号・モノビツェ収容所でブナとも呼ばれていました（1944年夏には1万1000人以上の囚人が収容されていました）。それは当初、本収容所から6km離れたモノビツェにドイツの化学企業IGファルベンインダストリーによって建設された合成ゴムとガソリン工場ブナ・ベルケの傍に建てられたブナ副収容所でした。その後1944年11月にブナ副収容所は独立し、強制収容所モノビツェに名前が変わりました。そしてアウシュビッツの殆どの副収容所がモノビツェの管轄に置かれていました。



写真：アメリカ国立公文書記録管理局（ワシントン）

1944年に連合軍が撮影した上空写真。写っているのは、アウシュビッツ1号、アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所、アウシュビッツ3号・モノビツェ収容所、IGファルベン社の化学工場など

トウシェビニア強制労働収容所。50ヶ所近くあったアウシュビッツ3号・モノビツェ収容所の副収容所の1つ



写真：撮影者不明

# アウシュビッツの 副収容所

1942～44年の間に、囚人たちの奴隸的労働力を活用するアウシュビッツ収容所の47ヶ所の副収容所と外部労働班ができました。

た。それらの副収容所は、主にドイツの炭鉱や製鉄工場とその他のシレジア地方の企業及び農場の傍に造られていました。

## 外部からの隔離

全ての収容所と副収容所はドイツ人にそして有刺鉄線と監視等で囲まれ、囚人たちは外部とのあらゆる交流が禁じられていました。また有刺鉄線で囲まれていた領域よりも外の世界から隔離され

ていた領域のほうが広く、それはアウシュビッツ1号とアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の周りの約40km<sup>2</sup>にも広がっていました。それは収容所付属地帯と呼ばれていました。

収容所で登録された人々の写真：  
ユダヤ人の少年、若いジプシーの女性、  
ポーランド人の少女

ユダヤ人を助けたことで逮捕され囚人となったポーランド人の個人登録カード

## 収容所内及びその周辺における レジスタンス

収容所内の極めて困難な環境と恐怖に身を曝しながらも、囚人たちは人間の尊厳を守ろうとしていました。そしてその一つの表れとして自発的そして組織的なレジスタンスが結成されたのです。収容所内の囚人たちの戦いは他の囚人たちの命を助けることに集中していました。またレジスタンスは政治的・文化的・宗教的活動でもありました。

組織はその時最大の人数であった、主にポーランド人の政治犯によって結成されました。また1942～43年にかけてその他の国民のレジスタンス組織も結成されました。1944年10月7日には特別労働班の囚

人たちの一部が反乱を起こし、数人のSS衛兵隊員を殺し焼却炉を爆破しました。

収容所内のレジスタンスの重要な活動の一つは、外の世界にアウシュビッツ収容所内で起きているナチス・ドイツの犯罪についての情報を流すことでした。それは収容所外で積極的に活動するレジスタンス組織と交流することによって可能になっていました。

ナチス・ドイツによって収容所が造られた時から、オシフェンチム市とその周辺の住民は命がけで囚人たちに食べ物と薬を届けたり脱走の手伝いをして、囚人たちを助けていました。

ヴィトルド・ピレツキ。ポーランド人の政治犯、アウシュビッツ収容所内のレジスタンスを始めたその指導者、収容所の外へ送り出す秘密報告書の作成者



# 強制収容所としてのアウシュビッツ

アウシュビッツは存在する間、ナチス・ドイツの強制収容所としての役割を果たし、時間と共に最大になりました。当初ここにはナチス・ドイツに特に危険と見做されたポーランド人政治犯が収容され、その中には社会的思想の指導者と成り得る人々、インテリ、文化人、学者、レジスタンスメンバーや将校などがいました。



写真：SS隊員



ゾフィア・マズデンとユネーバトル、アウシュビッツ、1944年

エドヴァルト・ガリンスキ（ポーランド人の政治犯）とマラ・ジメトバウム（ベルギーのユダヤ人女性）は、1944年夏にアウシュビッツから脱走した。2週間後にこの恋人たちはゲシュタポによって逮捕され処刑された

最初に連行された728人のポーランド人政治犯は、タルヌフ市の刑務所から1940年6月14日に送られてきました。この日が収容所の始まりだと言われています。ナチス・ドイツは始終この収容所にポーランド人を送り続けていました。ここには町での手入れと強制退去の時に逮捕された人々が連行されていました。例えば、ドイツ人の生活領域とされたザモシチ地方から強制退去させられたポーランド人住人全員が家族単位で連行され、そしてワルシャワ蜂起の時にはワルシャワ市民もここに送られました。

時間と共にナチス・ドイツは、占領したその他の国からの人々そしてジプシーとソ連軍捕虜も収容所に送り始めました。それらの囚人は登録され囚人番号を付けられました。1942年からは大量虐殺のため移送されたユダヤ人

の選別の結果として、労働力又は人体実験の材料として選ばれたユダヤ人も登録されるようになりました。

アウシュビッツ収容所に連行された少なくとも130万人の内、登録され囚人となったのは40万人でした。20万人のユダヤ人、15万人のポーランド人、約2万3000人のジプシー、約1万2000人のソ連軍の捕虜そしてその他の国民が約2万5000人でした。その内の50%が重労働、飢餓、死刑執行、病気・伝染病、極めて難しい環境と犯罪的な実験と懲罰と拷問によって死んだのです。又20万人近くの囚人たちがドイツ軍によってその他の収容所に移され、そこで多くの囚人たちが命を失いました。そしてアウシュビッツ収容所が解放された時には約7000人の囚人たちが残っていました。

## 収容所の囚人たちのカテゴリー

|    |                   |   |
|----|-------------------|---|
| ★  | ユダヤ人              | ・ 1942年からはユダヤ人が一番多く収容されていました。囚人番号を付けられたユダヤ人は約20万人いました。  |
| ▼  | 政治犯               | ・ 政治犯は約16万人でした。その内にはレジスタンス活動をしていたために又は手入れの時に逮捕されたというポーランド人が一番多く収容されていました。   |
| ▼  | 反社会的分子            | ・ 反社会的分子と見做された囚人のカテゴリーには、主に2万1000人の登録されたジプシーが含まれていました。  |
| SU | ソ連軍捕虜             | ・ ソ連軍捕虜は1万5000人で、その内1万2000人が登録されていました。  |
| EH | 教育囚人              | ・ 教育囚人というカテゴリーは約1万1000人で、労働規制を破り収容された人々でした。   |
| PH | 警察によって逮捕されたポーランド人 | ・ 警察によって逮捕されたのはポーランド人だけでした。カトビツェ市とミスオピツェ市のゲシュタポの刑務所が囚人で溢れていたため、ポーランド人はアウシュビッツ収容所に連行されました。収容所内では臨時裁判を待たされ判決は殆ど銃殺でした。その犠牲者数は数千人とされています。 |
| ▼  | 刑事犯               | ・ 刑事犯は主にドイツ人で数百人いました。その中から収容所管理局は、収容所内の規律維持に当たりSS隊員のために働く囚人を選びました。  |
| ▼  | エホバの証人            | ・ “エホバの証人”は宗教的な理由によって収容所に送られた人々でした。主にドイツ人で最低138人が登録されました。   |
| ▼  | ホモ                | ・ ホモは主にドイツ人で、最低数十人が登録されました。   |





アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所。ホームに立つハンガリーから連行されたユダヤ人。奥には死体焼却場のガス室と焼却炉の建物が見える

## ユダヤ人絶滅センターとしてのアウシュビッツ

1942年からアウシュビッツ収容所は2つ目の目的も果たすようになりました。つまりヨーロッパにおけるユダヤ人絶滅センターとなったのです。ユダヤ人は、性別・年齢・職業・国

籍と政治的思想を問わず“ユダヤ人である”という理由だけで殺害されました。新しく連行されてきたユダヤ人の大半がSS医師の選別で労働に適さないと判断され、ガス室で毒殺されたの

です。老人・病人・妊婦・子供には生き残る権利がありませんでした。そして彼らは収容所の囚人として登録されませんでした。又囚人番号も付けられなかったのです。



アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の第2死体焼却場のガス室と焼却炉



ガスを発する毒ガス・チクロンBの空き缶と珪藻土の塊





1944年5－6月にドイツ軍は約44万人のユダヤ人をハンガリーからアウシュビッツ収容所に連行してきました。その時にドイツ軍のカメラマンたちはアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所で約200枚の写真を撮りました。その写真には、SS隊員によって新しく連行されてきた人々の選別のシーン、ガス室へ向かう人々の姿、そしてガス室に入る順番を待っている人々が写っています。







## 収容所へ連行されたユダヤ人の数・国籍別 (戦前の国境内)

|               |         |          |
|---------------|---------|----------|
| ハンガリー         | 43万人    | (戦中の国境内) |
| ポーランド         | 30万人    |          |
| フランス          | 6万9000人 |          |
| オランダ          | 6万人     |          |
| ギリシャ          | 5万5000人 |          |
| チェコ・テレジンスシュタド | 4万6000人 |          |
| スロバキア         | 2万7000人 | (戦中の国境内) |
| ベルギー          | 2万5000人 |          |
| ドイツとオーストリア    | 2万3000人 |          |
| ユーゴスラビア       | 1万人     |          |
| イタリア          | 7500人   |          |
| ラトビア          | 1000人   |          |
| ノルウェー         | 690人    |          |
| その他の収容所と場所不明  | 3万4000人 |          |
| 合計            | 110万人   |          |

情報源：フランチシェク・ピペル





アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所。野積みで焼かれるガス室で殺害されたユダヤ人の遺体。



アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所を去る、解放された囚人たち

1945年1月27日に解放されたアウシュビッツ収容所の囚人7000人の内、300人以上が子供だった

写真：1944年末に特別防衛隊の囚人によって通説に撮影され、ポーランドのレジスタンスによって収容所の外へ送り出された写真

写真：ソ連軍のカメラマンが解放後に撮影した記録映画の一部

写真：ソ連軍のカメラマンが解放後に撮影した記録映画の一部

## 収容所の開放

1944年末に収容所管理局は接近してくるソ連軍を恐れて犯罪の痕跡を消滅させる作業を始めました。ソ連軍が収容所から60km離れたクラクフ市を解放した時、行進できる囚人たちは

1945年1月17～21日にドイツ第三帝国の奥に移動させられました。しかしドイツ人が収容所に残した約7000人の囚人たちは1945年1月27日にソ連軍によって解放されました。

## アウシュビッツの犠牲者数 (推定)

| 民族     | 連行された人数 | 登録された人数 | 殺害された人数    |
|--------|---------|---------|------------|
| ユダヤ人   | 110万人   | 20万人    | 百万人        |
| ポーランド人 | 14～15万人 | 14万人    | 7万～7万5000人 |
| ジプシー   | 2万3000人 | 2万3000人 | 2万1000人    |
| ソ連軍捕虜  | 1万5000人 | 1万2000人 | 1万4000人    |
| その他    | 2万5000人 | 2万5000人 | 1万～1万5000人 |
| 合計     | 約130万人  | 約40万人   | 約110万人     |

情報源：フランシシェク・ビペル

ユダヤ人・ポーランド人・ジプシーとソ連軍捕虜以外に、ナチス・ドイツは最低7000人のチェコ人・6000人のベラルーシ人・4000人のフランス人・2500人のドイツ人とオーストリア人、

1500人のロシア人、800人のスロベニア人、600人のウクライナ人もここに連行しました。そして少人数（つまり数十人から数百人）で、殆どのヨーロッパの国々の人々がここに収容されていました。





# 国立アウシュビッツ・ビルケナウ博物館と記憶の場の設立

## 始まり

ナチス・ドイツの強制収容所が解放され第二次世界大戦終了の数ヵ月後には、ポーランド人の元囚人のグループが、アウシュビッツ収容所の犠牲者を追悼するアイディアを公に発言し始めました。そして可能な時にその何人かが元収容所に行き、収容所跡の保護を始めたのです。彼らによってアウシュビッツ収容所の保護活動が始まったのです。そしてこの場所を訪れ親戚の行方を捜し求めて祈り、又殺害された人々を称える多

くの巡礼者の世話もしていました。

元囚人たちは博物館が設立される前に最初の展示を企画し、1947年6月14日に開会式が行われました。その式典には元囚人、殺害された人々の親戚、ポーランド全国から集まった巡礼者、ポーランド政府代表とナチス・ドイツ犯罪追求委員会とユダヤ歴史委員会、そしてイギリス・チェコスロバキアとフランス大使館を含む50万人が参加しました。

## 設立

1947年7月2日にポーランド国会は、元収容所の敷地及び物件の永久保護、そして国立オシフィエンチム・ブジェジンカ博物

館設立法を決議しました。そして1999年にその名義は“国立アウシュビッツ・ビルケナウ博物館”に変更されました。

## 博物館か記憶の場か

1947年にポーランド国会で決議された法律での博物館の役割は、元収容所の敷地及び物件の永久保護、アウシュビッツ収容所でのナチス・ドイツの犯罪に関する資料と証拠を収集すること、そしてそれらの研究と発表を行うことです。

しかし博物館の組織化やその活動及び発展に関する問題は、過去においても現在も、元囚人と博物館専門家、修復専門家、史学者、教育者そしてマスメディアによって討議されています。

博物館が設立される時も、歴史を語る場のみとするか、又は犯罪システムの主な構造を研究し説明する場にするか検討されていました。それに関しては両極端な意見が出されました。つまり元収容所跡を“完全に無くす”から“可能な限り完璧に保存する”という考えです。

また“博物館”という事も討論されました。“国立アウシュビッツ・ビルケナウ博物館”という名義が関係者全員の賛成を得ている訳ではないのです。ある人々は元収容所が“先ず墓地である”と考え、ある人々は“記憶の場である”と訴えています。またここは殺害された人々の研究やそれに関する教育を行う“記憶の研究所である”と訴える人もいます。しかし実際にはそれらの目的は変わらず1つになっていて、博物館がそれら全ての役割を果たしています。

写真：ソ連軍のカメラマンが解放後に撮影した収容所跡の一部



収容所の解放後に発見された、ナチス・ドイツ犠牲者の共同墓地

写真：ソ連軍のカメラマンが解放後に撮影した収容所跡の一部



収容所の解放直前に亡くなった囚人たちの葬儀

この博物館は1947年に設立されました。その敷地は2ヶ所の元収容所から成り立っています。それはアウシュビッツ1号とアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所で、その総合面積は191haです。又1979年にはポーランド側からの申し入れによって、元収容所がユネスコの世界文化遺産化されました。

解放後に発見されたアウシュビッツ収容所の犠牲者の靴（展示の一部）



写真：ヴィエスワフ・ジェリンスキ

## 敷地

博物館にはアウシュビッツ収容所全体の2ヶ所が含まれました。それは本収容所であったアウシュビッツ1号とブジェジンカにあったアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所でした。この博物館となるべき場所については1940年代にポーランドで大きく討議されました。その候補にはアウシュビッツ収容所の副収容所で本収容所から数十kmも離れている所もありました。しかし結局は総合面積が191haの2ヶ所の主な収容所である、アウシュビッツ1号とアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所のみの保護が決定されたのです。

このように殆どのユダヤ人の絶滅設備と、囚人棟とバラック、トイレ、管理局の建物、SS衛兵棟、新しく連行されてきた囚人たちの登録が行われていた建物を含む150軒及び収容所の門、監視塔、十数kmの有刺鉄線、収容所内の道路、ビルケナウ収容所の鉄道の引込み線があった所が博物館の管理下となったのです。又ソ連軍によって収容所が開放されたその直前と直後に亡くなった囚人たちの墓地も博物館の敷地内となりました。

収容所の多くの建物などはその解放前に破壊されました。

またその一部は1944年と1945年にSSによって犯罪の痕跡を消滅させる作業の時に解体・破壊されました。木造バラックの一部は解放直後に解体されました。

2002年には博物館の敷地内に「赤い家」と呼ばれていたアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の最初的气体室が加わり、2004年には収容所の倉庫があった「古い劇場」と呼ばれていた建物とその周りも加わりました。そこにある砂利採掘場では囚人たちが重労働を強いられ、多くの人が殺害されました。

## 維持費

博物館はポーランド文部・国家遺産省の管轄にあり、ポーランド政府によってその活動資金が賄われています。又20世紀の90年代になると外国からの資金援助も始まり、ロナルドS. ローダーのユダ

ヤ民族基金からの寄付金で博物館に専門的な修復作業室が設けられました。更にドイツを含むその他の国々や、フランスのホロコースト記念財団を始めとする数々の協会や個人からの援助によって、一

部の修復工事や犠牲者追悼企画の実現も可能となりました。

2008年にはアウシュビッツ・ビルケナウ基金が創設されました。その目的は、アウシュビッツ強制収容所跡を訪れる次世代が、第二次世界大戦中ナチス・ドイツによって行われた犯罪の現場を自らの目で見極める事ができるように、この“記憶の場”の修復活動に必要な資金を保障することです。

しかしそのためには約1億2000万ユーロの基金が必要です。一度その目標額が集まれば、“アウシュビッツ・ビルケナウという記憶の場を次世代のためにどのように保存したらよいか”という問題は解決されます。なぜなら、安全に投資されたその確固たる基金から得る利子を不可欠な修復作業に充てることができるからです。それと共に、囚人棟や監視塔を含む155の建物の跡や、ガス室跡を

アウシュビッツ1号跡の現在の上空写真



写真：ヴォイチュフ・ゴルゴレフスキ



含む300ヶ所の廃墟、さらに十数kmに及ぶ道路や囲い、そして収容所内のインフラとその他の跡、収蔵された資料と物品を対象とす

る、総面積200haに及ぶ収容所跡全体の修復企画の導入も可能となります。

寄付金はホームページへ

([www.auschwitz.org.pl](http://www.auschwitz.org.pl))、又は次の口座へお願いいたします。

(口座番号：1240 1170 1111 0000 2418 5907)

## 国際アウシュビッツ委員会

1990年にはポーランド文化大臣がアウシュビッツ博物館付属国際委員会を設立しました。その委員会員にはアウシュビッツ収容所の元囚人たち、史学者、色々な国の専門家が選ばれました。委員会は顧問そして世論を形成する役割を果たしています。

博物館は、“記憶の場”としての活動に関する重要な課題について、又直接博物館が関係していないポーランドと外国で大きな反

響を起こす疑問についても委員会の意見を聞きます。

2000年にポーランドの総理大臣は6年間を任期とする国際アウシュビッツ委員会の設立を発表しました。そしてこの委員会はそれまでの委員会の役割を引き継いだのです。しかし異なる点は、委員会が博物館ではなく総理大臣の顧問の役割を果たすことです。国際アウシュビッツ委員会はナチス・ドイツの元アウシュビッ

ツ収容所の保護と管理だけではなく、ポーランドにある全ての絶滅収容所慰霊碑における顧問の役割を果たしています。

2006年に創立されたこの委員に、フランス・イスラエル・ドイツ・ポーランド・ウクライナ・アメリカとイギリスの代表者が選ばれました。そして再びその会長にはアウシュビッツ収容所の元囚人ヴァディスワフ・バルトシェフスキ教授が選出されました

## アウシュビッツ・ホロコースト教育センター委員会

2005年にポーランド文化大臣は博物館の組織内にアウシュビッツ・ホロコースト教育国際セ

ンター委員会を創立しました。その委員会は若い世代にアウシュビッツとホロコーストの犠牲者につ

いての知識を伝える活動を支援しています。

アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所跡の現在の上空写真





フランシšek・ヤジヴィエツキ。自画像

オプフィエンチン国立アウシュビッツ・ビルナナウ博物館の収蔵資料

## 博物館の活動について

博物館の規定にある義務は、資料と遺品の収集、物件の保護と修復保管であり、又それらを研究し一般公開することです。

収容所の解放後にその敷地内とその周辺で数千の遺品が発見されました。それらは殺害が目的で収容所に連行されたユダヤ人の所持品で、トランク（名前や住所が書いてある物もあります）、タウエス（ユダヤ人が祈る時に肩にかける特別な布）、義手と義足、眼鏡、靴などです。現在それらの物が博物館の保管する遺品の大部分であり、またその多くを元アウシュビッツ収容所の囚人棟にある収容所の歴史を示す一般展示で見ることができます。

博物館のアーカイブには資料と写真、密かに収容所内で創られた美術品、又は解放後に創られた美術品があります。そして解放直後に元囚人たちによって描かれた

絵とグラフィックも重要な資料です。それらは収容所内の生活を再現していて、生き残った人々からのある種の報告でもあります。彼らの多くは博物館設立にも積極的に参加していて、それらは博物館を設計したアーティストの作品なのです。

それ以外にも博物館は、ナチス・ドイツの資料そして収容所に存在していた資料を保管しています。その中には収容所内外のレジスタンスによって作られた資料もあり、元囚人たちの証言と報告、また世界で行われたナチスの裁判時の証言のような戦後の資料もあります。そして世界で出版されているアウシュビッツ収容所とナチスの思想に関する書籍も収集されています。

アウシュビッツ収容所へ移送されたユダヤ人の所持品のスーツケース



写真：マグダ・エミレヴィッチ・ビュロ

写真：リシヤルド・ドマシク



博物館の収蔵資料の中には、戦中にアウシュビッツ収容所の囚人となった人々が創作した2000点を含む、6000点近い芸術品がある



## 遺品

遺品部は、収容所で使用されていた物、殺害された又は収容所に連行された人々の遺品、収容所内又はその周辺で発見された遺品を収集し保管しています。それ以外にも多くの物が博物館に寄付され保管されています。

博物館には下記の物品が保管されています。

- 8万足以上の靴
- 3800個のトランク（その内の2100には文字が書かれています）
- 12000個の鍋
- 約40kgの眼鏡
- 460本の義手と義足

- 570着の縞模様の囚人服
- 260着の洋服
- 260のタウエス（ユダヤ人が祈る時に肩にかける特別な布）
- 金属製品を溶かして作った塊40m<sup>3</sup>（アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所に連行された人々の所持品があった「カナダ倉庫」からのもの）
- 6000点の美術品（その内収容所内で囚人たちが創った美術品は約2000点）

また博物館には約2 tの髪の毛も保管されています。それらは収容所に連行された女性たちのものです。

## アーカイブ

アーカイブには、収容所が存在していた時の書類、約3万9000枚の新しく連行されてきた囚人たちの写真のネガ、そして主にベンジン市とソスノビェツ市のユダヤ人ゲッターから連行されてきたユダヤ人たちの家族写真が2500枚近く保管されています。

アーカイブにはドイツの管理局が作成したオリジナルの書類、その他のポーランドと外国の書類のコピー、ナチスの犯罪者の裁判の書類、戦中に収容所内外のレジスタンスによって作成された書類、戦後に作られた資料（元四人たち等の証言、報告）、写真・マイクロフィルム・記録映画、研究書籍、評論、展示会と映画のシナリオなどが保管されています。

現在下記のコレクションがあります。

- 約3万9000枚の新しく連行されてきた囚人たちの写真のネガ。それらは囚人の身分を明らかにする刺青が入れられるま

で、収容所の管理局によって撮影されたものです。

- アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所で、1944年にハンガリーのユダヤ人が連行されてきた時にSS隊員によって撮影された約200枚の写真。またそこにあったガス室付近で密かに特別労働班の囚人によって撮影された数枚の写真。収容所が存在していた時にSS隊員によって撮影された建物と収容所の敷地の約500枚の写真。収容所に主にベンジンとソスィビュツのユダヤ人ゲットーから連行された人々の家族の写真約2500枚。1944年にアメリカ空軍



1945年1月にソ連軍の進撃が近付いたため、撤退を開始したドイツ人が火を放った倉庫の炎。あらゆる努力にも拘らず、ナチス・ドイツはアウシュビッツで犯した犯罪の痕跡を完全に消滅させることはできなかった

| Officer                  | Serial | First Name | Last Name | Address      | City    | State | Zip   | Phone    | Notes      |
|--------------------------|--------|------------|-----------|--------------|---------|-------|-------|----------|------------|
| <b>Officer 1: 11000</b>  |        |            |           |              |         |       |       |          |            |
| Officer 1                | 11000  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 1  |
| Officer 2: 11001         | 11001  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 2  |
| Officer 3: 11002         | 11002  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 3  |
| Officer 4: 11003         | 11003  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 4  |
| Officer 5: 11004         | 11004  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 5  |
| Officer 6: 11005         | 11005  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 6  |
| Officer 7: 11006         | 11006  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 7  |
| Officer 8: 11007         | 11007  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 8  |
| Officer 9: 11008         | 11008  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 9  |
| Officer 10: 11009        | 11009  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 10 |
| <b>Officer 11: 11010</b> |        |            |           |              |         |       |       |          |            |
| Officer 11               | 11010  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 11 |
| Officer 12: 11011        | 11011  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 12 |
| Officer 13: 11012        | 11012  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 13 |
| Officer 14: 11013        | 11013  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 14 |
| Officer 15: 11014        | 11014  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 15 |
| Officer 16: 11015        | 11015  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 16 |
| Officer 17: 11016        | 11016  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 17 |
| Officer 18: 11017        | 11017  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 18 |
| Officer 19: 11018        | 11018  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 19 |
| Officer 20: 11019        | 11019  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 20 |
| <b>Officer 21: 11020</b> |        |            |           |              |         |       |       |          |            |
| Officer 21               | 11020  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 21 |
| Officer 22: 11021        | 11021  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 22 |
| Officer 23: 11022        | 11022  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 23 |
| Officer 24: 11023        | 11023  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 24 |
| Officer 25: 11024        | 11024  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 25 |
| Officer 26: 11025        | 11025  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 26 |
| Officer 27: 11026        | 11026  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 27 |
| Officer 28: 11027        | 11027  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 28 |
| Officer 29: 11028        | 11028  | John       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 29 |
| Officer 30: 11029        | 11029  | Jane       | Smith     | 1234 Main St | Anytown | CA    | 90210 | 555-1234 | Officer 30 |

1941年9月26日にアウシュビッツ  
に到着した人々の囚人登録名簿

によって撮影された数十枚の収容所の敷地の写真。開放後に博物館のスタッフなどによって撮影された写真。

- ・ アウシュビッツで亡くなった  
又は殺害された7万人の死亡  
通知が含まれている48冊の  
「死亡ブック」
- ・ アウシュビッツのSSと警察の  
中央建設局の書類が含まれて





# 元囚人についての情報

元囚人に関する情報をご希望の方は、手紙又は元囚人情報事務所に直接お問い合わせください。担当者が収容所の書類を基にお答えします。ただし書類の殆どが収容所解放直前にナチス・ドイツによって焼却されたこ

と、そして収容所到着時に行われたSS隊員の選別で直接ガス室へ送られ殺害されたユダヤ人についての記録が皆無で、そのような大多数のアウシュビッツの犠牲者に関する記録は一切存在していません。

オシフィエンチン集中収容所アウシュビッツ・ビルケナウ博物館の記録管理部



戦中殺害された人々の遺体を焼却炉で燃やす作業を強制された、特別労働班のユダヤ人の囚人の書き留めたメモが戦後の収容所跡で発見された。囚人たちの証言も大事だが、その様な資料自体もナチス犯罪の歴とした証拠である。写真には囚人の名のない手書きのメモが写っている。イディッシュ語で書かれたそのメモは第3死体焼却場のガス室跡で1952年に発見され、ガス室でのユダヤ人大量虐殺過程の記述などがある

## デジタル・データベース

アウシュビッツ収容所の元囚人に関するデジタル・データベースの作成は、その場所で殺害された人々に関する記憶保持のために非常に重要です。また常時作成され現在50万以上あるデジタル・データベースで保管

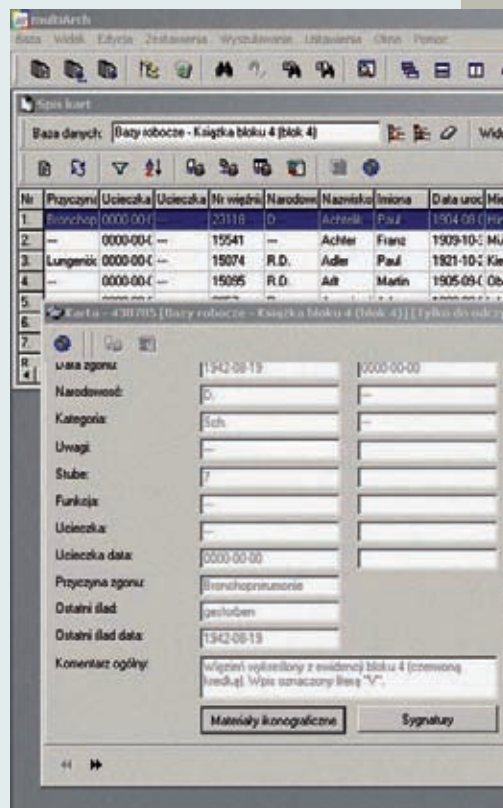
されているものは、収容所で使用されていた書類56部に関する情報です。これによってコンピュータのモニターに表示される情報への速やかなアクセスと検索された資料による分析が可能です。

資料からデジタル・データベースを作成する職員は、アウシュビッツ収容所へ移送された人々と囚人に関するデジタル・データベースの責任者である

## 図書室

図書室の蔵書の内容は博物館の展示に一致しています。収集されているのは主に“第二次世界大戦”“ホロコースト”“アウシュビッツ”をテーマとした強制収容所と刑務所の歴史、そして反ユダヤ主義と民族主義関連のものです。3万冊ある蔵書の中には、第二次世界大戦中のレジスタンス史、第三帝国史と新ナチズム関連、又ユダヤ民族史とその伝統を記述する出版物も豊富にあります。

図書室には記録文学と学術論文の他に、回顧録、長編短編小説・詩・戯曲を含む純文学、地図・百科事典・辞書と雑誌も保管されています。その内でも第三帝国で出版された本と雑誌は秘蔵されています。



# 物件の保護・修復

博物館の保管部は、現存する150軒以上の建物、アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の4つの死体焼却場（ガス室・焼却炉）を含む約300の史跡、3600本のコンクリートの支柱を含む長さ13kmにも及ぶ収容所の囲いなどを保護しています。

博物館の保管部は、バラック・囚人棟など現存する150軒以上の建物、アウシュビッツ史で特に重要な意味を持つアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の4つの死体焼却場（ガス室・焼却炉）を含む約300の史跡、3600本のコンクリートの支柱を含む長さ13kmにも及ぶ収容所の囲いなどを保護しています。200ha近い敷地には、舗装された道・排水

溝・側線と特設ホームのある線路が何十kmも続き、2ヶ所の下水処理場・消防用用水池などもあります。その他に芝生や約20haの森林を含む戦前からの樹木も保護されています。

保管部では、記録資料・日常必需品・写真や芸術作品に保存・修復作業を行っています。博物館に収蔵されている囚人が創作した約2000点の芸術品と、戦後創

作された約4000点に関する保存作業も行われています。

また、トルンのニコラス・コペルニクス大学／クラクフ美術大学／ワルシャワ美術大学／ドイツのケルン科学大学／シロンスカ工科大学／シフィエントクシスカ工科大学との協力で、最新技術を用いた保存・修復作業企画や学生用の実習も行っています。

## 修復作業室

2002年に博物館に設けられた近代的な修復作業室にはポーランド国内で最も充実した設備があります。ここでは幾つかの重要な企画が実現しました。それはアウシュビッツ収容所へ移送された人々から収奪された4万足近い靴が清浄・保管され、アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の焼却炉の金属部品や、

ドイツ人の婦人科医クラウベルクが利用していた実験室内の診察台、数十個のスーツケース、スケッチ、グラフィック・アートと絵画などが修復されました。現在その一部はポーランド内外で展示されています。その他に博物館の保管部にある原本の一部にも保存と修復作業が行われました。

## アウシュビッツ収容所史の研究とその解析

博物館の史学者はアウシュビッツ収容所を研究しています。そして現在も下記の3つの課題に集中しています。

・犠牲者の身元に関する知識を広めること

- ・未知である収容所各部の歴史の研究、収容所と関連していたSS（ナチス親衛隊）の構成に関する資料収集
- ・収容所史の典拠の編集

### 保管部の研究室



写真：ミゲル・ペレス・ベラスコ  
写真：ネル・ヤストシェンボフスカ



写真：リチャード・トマソン

収容所の監視塔。博物館の保管部は敷地だけでなく物件の保存と保護を行っている

アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の囚人棟跡で行われる保存作業





この研究活動は1950年代に始まりました。当初の作業は収容所に関する基本的な史料と元囚人の回顧録の出版、そして収容所で起きた出来事の詳しい説明に集中していました。その結果最初に記録された最も重要な論文は、ダヌタ・チェフ著の『アウシュビッツ強制収容所における出来事の年表 (Kalendarz wydarzeń w KL Auschwitz)』でした。そしてこれは更に補足され、1989年にドイツで、1992年にポーランドで、1997年にアメリカで、そして2006年にはイタリアで出版されました。

1960年代後半そして1970年代の研究活動は、アウシュビッツ収容所の副収容所のネットワーク、アウシュビッツ収容所におけるレジスタンス、そしてアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所に集中していました。それと同時に研究所勤務のフランチシェク・ビペルは、収容所における囚人の労働状況、そしてアンジェイ・ストシェレツキは“収容所からの撤退”“収容所の消滅”“収容所の解放”に関する研究を進めていました。

その後もアウシュビッツ収容所史の全般について、又はより詳細に問題に関連する研究活動が行われました。そしてその成果として次の書籍が出版されました。

- ・『アウシュビッツの死亡者名簿 (Księgi zgonów z Auschwitz)』
- ・『記憶の本 (Księga Pamięci)』
- ・『アウシュビッツ＝ビルケナウ強制収容所におけるジプシー (Cyganie w obozie koncentracyjnym Auschwitz-Birkenau)』など
- そしてポーランド人だけをテーマとした「記憶の本」も出版されました。
- ・『記憶の本 — ワルシャワからアウシュビッツ強制収容所へのポーランド人の移送 1940～44年 (Księga Pamięci. Transporty Polaków z Warszawy do KL Auschwitz 1940-44)』、
- ・『記憶の本 — クラクフを含むポーランド南部からアウシュビッツ強制収容所へのポーランド人の移送 1940～44年 (Księga

Pamięci. Transporty Polaków do KL Auschwitz z Krakowa i innych miejscowości Polski południowej 1940-44)』、

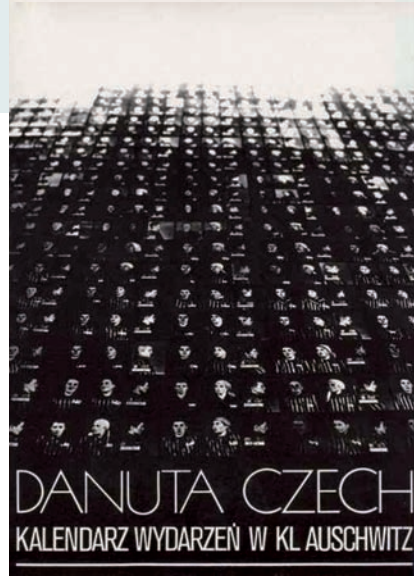
- ・『記憶の本 — ラドムを含むキェルツェ地方からアウシュビッツ強制収容所へのポーランド人の移送 1940～44年 (Księga Pamięci. Transporty Polaków do KL Auschwitz z Radomia i innych miejscowości Kielecczyny 1940-44)』
- また上記以外にも叢書が多く紹介されました。

『記憶の本』では移送された人数や収容所での死亡率を分析する他に、収容された人々の生涯を可能な限り再現する試みがなされています。それらの書籍には次のものがあります。

- ・ヘンリク・シフィエボツキ編集の『善意の人々 — アウシュビッツ強制収容所の囚人たちを助けた、オシフィエンチム地方の住民を追悼する記憶の本 (Ludzie dobrej woli. Księga Pamięci mieszkańców Ziemi Oświęcimskiej niosących pomoc więźniom KL Auschwitz)』
- ・アウシュビッツへ移送されたベンジン市のユダヤ人に関する共著『彼らが去る前にZanim odeszli』
- ・収容所へ移送された子供たちについて語る、ヘレナ・クビツァ著の『彼らのことを忘れてはならない—アウシュビッツの最年少の犠牲者たち (Nie wolno o nich zapomnieć. Najmłodsze ofiary KL Auschwitz)』という書名のアルバム2冊

その他に博物館の史学者たちが研究した重要なテーマの書籍には次のものがあります。

- ・アウシュビッツ強制収容所の犠牲者数 (フランチシェク・ビペル)
- ・アウシュビッツ強制収容所からの脱走者による報告 (ヘンリク・シフィエボツキ)
- ・収容所とその周辺のレジスタンス (ヘンリク・シフィエボツキ)
- ・犠牲者の所持品の収奪 (アンジェイ・ストシェレツキ)
- ・ブナ副収容所とIGファルベン社の歴史 (ピョートル・セトキエヴィッチ)



アウシュビッツ収容所史に関する最も重要な資料の1つは、博物館に勤務している史学者ダヌタ・チェフ著の「アウシュビッツ強制収容所における出来事の年表 (Kalendarz wydarzeń w KL Auschwitz)」である。

- ・残虐な人体実験 (イレナ・ストシェレツカ)
- ・収容所の各区域の歴史 (イレナ・ストシェレツカ)
- ・ウッジのゲッターからアウシュビッツ強制収容所へ移送されたユダヤ人の運命 (アンジェイ・ストシェレツキ)
- ・1942～43年にザモシチ地方から移送されたポーランド人のアウシュビッツにおける絶滅 (ヘレナ・クビツァ)
- ・占領下ヨーロッパにおけるジプシーの運命とアウシュビッツにおける絶滅 (ヴァツワフ・ドゥウゴボルスキ)
- ・アウシュビッツ強制収容所におけるエホバの証人 (テレサ・ヴォントル＝チヒ)
- ・ヴィトルド・ピレツキ大尉とステファン・ヤシェンスキ少尉を始めとする、レジスタンスメンバーの伝記 (アダム・ツィラ)

そして長年研究活動が続けてきた博物館が誇る、その集大成である叢書 (全5巻) は『アウシュビッツ1940～45年—収容所史における最重要問題 (Auschwitz 1940-45. Węzłowe zagadnienia z dziejów obozu)』です。

# 展示とその記憶の保護について



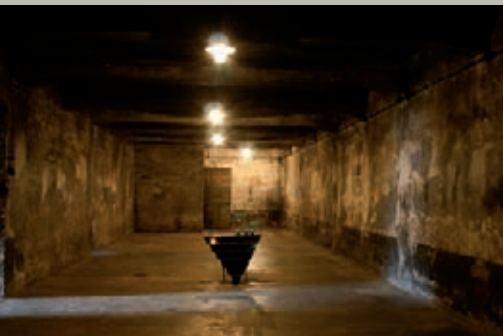
写真：リディア・フォリチヤン

解放後にアウシュビッツ収容所内で発見された、連行されたユダヤ人の写真。アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の偽シャワー室跡における展示の一部



写真：リチャード・ドマン

博物館には、ナチス犯罪の最も衝撃的な証拠である2t近くもある女性の犠牲者たちの髪の毛が展示されている



写真：スティーヴ・モゼット

アウシュビッツ1号の第1死体焼却場のガス室跡の現状

国立アウシュビッツ・ビルケナウ博物館の持つ重要な意味  
この場所の持つ重要な意味はホロコーストと大量虐殺の痕跡にあり、当時のまま保護されている収容所の敷地と物件そして廃墟にあります。ここには人間の遺灰が撒かれた場所や、爆破されたガス室・焼却炉の跡、SSの医師たちが選別を行っていた場所、人々がガス室に連行される時に通った道、移送された家族が“死”を待っていた場所、囚人の暴動が起きた場所、そして死刑が執行された場所などがあります。

## 元アウシュビッツ1号 収容所での常設展

1947年にアウシュビッツ1号の囚人棟で最初の展示が行われました。そして1955年に準備された新しい展示はその後多少修正され現在まで続いています。

この展示では、様々な国の人々の強制収容所でありヨーロッパのユダヤ人絶滅センターでもあった、アウシュビッツ収容所の2つの姿を紹介しています。

## 強制収容所展

この展示では、アウシュビッツでの重労働・飢餓・病気・人体実験、そして死刑や種々の拷問と懲罰などで命を落とした人々の生活環境を紹介しています。また収容所で殺害された人々の写真や様々な書類、収容所の生活を表現した芸術品なども展示されています。現在見学者の入場の許されている元監獄であった棟には、囚人となった人々や彼らを助けようとして逮捕された人々が拘置されていた独房や監房がそのまま残されています。壁やドアそして窓際の所々には当時描かれた絵や文章

が刻まれています。又収容所内のレジスタンス、懲罰・死刑の執行、犯罪者とみなされた人々の運命を語る展示もあります。地下には、収容所の規則に違反しSS隊員に有罪とされた人々を拘禁した独房もあります。1941年に囚人たちの餓死刑もそこで執行されました。そしてその同じ場所で、ある囚人の身代わりになったポーランド人神父マキシミリアン・コルベも餓死刑の囚人たちと一緒に命を落としたのです。又そこでは毒ガス・チクロンBを用いた虐殺実験も行われました。

## ヨーロッパのユダヤ人絶滅センター展

この展示は、収容所の特設ホームに到着した時からSS医師の選別によるガス室での死まで、ユ

ダヤ人大量虐殺の全過程を語っています。その犯罪の最も衝撃的な証拠の1つには、2t近くもある



女性犠牲者の髪の毛があります。又収容所解放後に見付かった、タウエス（ユダヤ人が祈る時に肩にかける特別な布）・眼鏡・犠牲者の名前と住所の書かれたスーツケース・靴・義足や義手・子供服・

食器など、人々が収奪された所持品の展示もあります。それらは第三帝国へは送られず又撤退前に焼却されなかった物で、いずれにせよ殺害された人々の所持品の一部にしか過ぎないのです。

## アウシュビッツ 2 号・ビルケナウ収容所の保護

アウシュビッツ収容所犠牲者の大半がアウシュビッツ 2 号・ビルケナウ収容所で殺害されたことから、博物館はその史跡に展示を設けず解放当時のまま保護することを決定しました。

アウシュビッツ 2 号・ビルケナウ収容所における唯一の展示は、戦中移送された囚人たちの登録・消毒が行われた、いわゆる「サウナ」と呼ばれた棟で 2001 年に開かれました。当時の犠牲者が通らなければならなかった順にその棟を見学すると、その役割と史実を知ることができます。そして最後の部屋には、収容所解放後に発見された、移送されたユダヤ人の持っていた 2000 枚近くの写真が展示されています。

アウシュビッツ 2 号・ビルケナウ収容所にはその犠牲者を追悼する記念碑が建っています。

又 2005 年には、その移送

と絶滅の歴史に関連して悲劇の起きた以下の 2 ヶ所が記憶の場所として選ばれました。

- ・ アウシュビッツ 2 号・ビルケナウ収容所の後方付近にあり“赤い家”と呼ばれていた、1942 年春に使用が始まった最初的气体室跡
- ・ 1942 年春から 1944 年 5 月まで、ユダヤ人・ポーランド人・ジプシーの移送された人々が列車から降ろされていた、アウシュビッツ 1 号とアウシュビッツ 2 号を繋ぐ側線沿いの特設ホーム。ここでは SS 医師たちがユダヤ人の選別を行っていました

## 国別展示

アウシュビッツ 1 号では、当初からアウシュビッツ国際委員会のメンバーである様々な国の元囚人たちが率先して設けた、国別展示の複数の常設展を見学することができます。その展示の目的はアウシュビッツ収容所へ移送された人々の運命を紹介し、“様々な国でナチスの占領がどのように行われたか”を知識として普及させることにあります。最初の

展示は 1960 年に公開されました。しかしその後数十年に亘り、その一部は中止となり、全てあるいは部分的に変更され新しいものも設けられました。これはアウシュビッツ収容所犠牲者の祖国ごとに派遣された専門家によって準備されています。そして博物館との協力とアウシュビッツ国際委員会の承認を得て展示されています。

写真・ヤルコ・メンズフェルト



アウシュビッツ 2 号・ビルケナウ収容所。第 3 死体焼却場のガス室と焼却炉の跡

写真・ヤルコ・メンズフェルト



アウシュビッツ 2 号・ビルケナウ収容所。移送された人々を乗せた列車が停車した特設ホームの記念碑。手前には戦中ドイツ人の撮影した写真が見える

写真・リチャード・ドマシク



ナチス・ドイツが数千人を銃殺した場所。「死の壁」



写真：ワイエンスタット・シュレンスキー

アウシュビッツ 2 号・ビルケナウ収容所跡の一部。検疫のためのバラックと他の囚人棟跡が見える



写真：ヤルコ・メンズブシュト

「裏切られた市民、ハンガリーのホロコーストの犠牲者を偲んで」という題の展示の一部



写真：トマン・ビュレン

出版社の目標は、収容所犠牲者に関する記憶を保ち、ナチスによるホロコーストとアウシュビッツ収容所内で行われた犯罪を文書で記録し、収容所に関する知識を普及させることである

現在、以下の展示を見学することができます。

- ・ 1933～45年のユダヤ人の殉難、その戦いと絶滅
- ・ 1939～45年のポーランド人の戦いと殉難
- ・ ヨーロッパにおけるジプシーの絶滅
- ・ スロバキアのユダヤ人の悲劇
- ・ アウシュビッツ収容所におけるチェコからの囚人
- ・ 裏切られた市民、ハンガリー出身のホロコーストの犠牲者を偲んで
- ・ フランスからアウシュビッツ収容所へ移送された人々
- ・ 1940～44年のベルギー、ナチスによる占領とアウシュビッツ収容所への移送
- ・ 1940～45年のオランダにおけるユダヤ人の迫害とその移送
- ・ その他オーストリア・バルカン半島の諸国・イタリアが準備している展示があります。ロシアは更新中です。

## 定期展示と巡回展示

博物館は設立から60年間、約300回に及ぶ定期展示と巡回展示を行ってきました。そしてそれらには1500万以上の人々が訪れ、展示はポーランドの他、オーストリア

・イギリス・旧チェコスロバキア・ドイツ・イスラエル・日本・オランダ・スイス・スウェーデン・アメリカ・ハンガリー・イタリア・旧ソ連（現ロシア）で行われました。

## 出版部

博物館の出版部は現在まで数百冊を刊行し、それらは合計すると約800万部になります。

出版部の主な目標は、アウシュビッツ収容所犠牲者に関する記憶を保ち、ナチス・ドイツによるホロコーストとアウシュビッツ収容所内で行われた犯罪を文書で記録し、アウシュビッツ収容所に関する知識を普及させることです。

出版部は、学術論文や一般向け科学論文、純文学、回顧録、アルバム、カタログ、ガイドブック、詩集、ポスター、収容所の歴史を語るドキュメンタリーなどを数ヶ国語で刊行しています。

その中で最も重要な出版は、ダヌタ・チュフ著の『アウシュビッツ強制収容所における出来事の年表 (Kalendarz wydarzeń w KL Auschwitz)』と、数ヶ国語で紹介された『アウシュビッツ1940～45年—収容所史における最重要問題 (Auschwitz 1940-45. Węzłowe zagadnienia z dziejów obozu)』とい

う叢書（全5巻）です。

博物館勤務の史学者と他の研究者で1957年から研究されている収容所史に関する種々のテーマを紹介する学術誌「オシフィエンチム・ノート (Zeszyty Oświęcimskie)」(ポーランド語とドイツ語の2ヶ国版)が刊行されています。

又博物館の活動内容とその学問的・政治的・社会的な意味合いに関し、広範囲の情報を提供するために考えられたニュースレター「PRO MEMORIA」も、1994年から定期的に発行されています。これは学術誌「オシフィエンチム・ノート」とは異なり、高校生から科学者まで幅広い層を対象にしています。

全ての出版物は、博物館内の売店又は博物館のホームページでお求めいただけます。  
([www.auschwitz.org.pl](http://www.auschwitz.org.pl))



# インターネット

博物館のホームページ（[www.auschwitz.org.pl](http://www.auschwitz.org.pl)）では、アウシュビッツ収容所史に関する情報と、記録資料（ここで殺害された10万近くの人々の名簿を含む）へアクセスできます。その他にも博物館の入場料やガイドの予約、オシフィエンチム市での宿泊に関する情報など、アウシュビッツ収容所の訪問を計画するために必要な全ての情報を調べることができます。

又ホームページには、アウシュビッツ収容所とホロコーストに関する国際教育センター（Międzynarodowe Centrum Edukacji o Auschwitz i Holokauście）の活動も詳しく紹介されています。その他に博物館の構成、各部の活動、博

## 2009 年度の見学者数・大陸別



ここ数年間にアウシュビッツ収容所跡を訪れた人々は年間100万人に上る

博物館における出来事の説明、過去・現在の写真も見ることができます。

## 教育活動について

### アウシュビッツ収容所とホロコーストに関する国際教育センター

このセンターは、大学院での研究、セミナー、テーマ別会議、留学や研修、ポーランド内外の教師と青少年用の講習会及び学習キャンプで、アウシュビッツ収容所とホロコーストに関する教育活動を行っています。全ての講義と授業は、博物館に勤務している科学者そして大学教師によって行われています。又博物館を見学する人々への様々なサービスの準備も行っています。

2005年1月27日にはアウシュビッツ収容所解放60周年記念の式典が開かれ、数百人もの元囚人がこのセンターの設立規約に調印し、ポーランド文化大臣は同年5月にその設立を正式に発表しました。

このセンターの主な活動は、

ポーランド内外の教師と青少年、そして学者たちとの交流です。

その例として、講演、博物館内の授業、ワークショップ、教師用の会議、シンポジウム、映画の上映、収容所をテーマとした作文コンテストなどを行っています。



博物館のホームページは、アウシュビッツ史に興味のある全世界の人々によって利用されている

国際教育センターの活動の1つには青少年との交流がある。ジブシーに関する展示を見学するモスクワの高校生たち

写真：モスクワの第653高等学校



# アウシュビッツ収容所とホロコーストに関する教育活動

## ・ 大学院での研究

教育省に承認された大学院での研究（教師用）は、クラクフの教育アカデミーとの協力で実施されています。学際的な収容所関連の研究は、ナチス・ドイツの独裁政治やユダヤ人・ポーランド人・ジプシーなどの絶滅作戦の歴史をさらに詳細にし、それは広範囲の背景を基に進められます。そして全体主義政権の起源とその発達、さらに人種差別や反ユダヤ主義や偏狭の現象を分析します。その他に

第二次世界大戦の最重要問題と結果、そしてユダヤ民族史とその文化の解説を行うと同時にそれが文化・芸術・哲学などにも存在することも説明します。

それらの授業は、著名な人文・社会科学者（史学者・文学者・社会学者など）と博物館に勤務している科学者によって行われます。

## ・ セミナー

人文科学者や中学・高校教師や聖職者が参加する数日間のセミナーは、青少年にとって博物館見学のための予備知識となります。そのプログラムには、アウシュビッツ収容所における各民族／宗教団体の運命に関する講義、アウシュビッツ収容所とホロコーストをテーマとする記録映画の上映、記録管理部と収蔵資料部における講義、そしてアウシュビッツ収容所の専門的な見学が含まれています。

## ・ テーマ別会議

アウシュビッツ収容所の最重要問題を巡り終日続くテーマ別会議は、アウシュビッツ収容所とホロコーストそして第二次世界大戦史に関する知識を深めることを目的とした、教師とセンターの研修を卒業した人々のために開かれているものです。この会議ではセミナーと大学院で研究したテーマをより広く取り扱います。また会議は青少年の教育に関する意見交換の場にもなっています。

・ ポーランド内外の教師と青少年用の講習会及び学習キャンプ  
この講習会及び学習キャンプでは、ポーランドとヨーロッパでナチス・ドイツによる占領を生み出す切っ掛けとなった事情を説明し、アウシュビッツの歴史を教えています。参加者の年齢・興味・リクエストによって、各グループに対して独立したプログラムが準備されます。



写真：バルトン・バルティジェ

全ヨーロッパから集まってくる学校の先生のための国際セミナー

## アウシュビッツ絶滅収容所跡の見学

### アウシュビッツ — それは現在の世界にとって重要な意味を持つ場所です

現在まで全世界から3000万以上の人々が“記憶の場所”であるアウシュビッツ博物館を訪問しています

解放後間もなく、ここは現在の世界にとって非常に重要な意味を持つ“記憶の場所”と見做されました。常に増加している訪問者数が正にそれを立証しています。現在まで全世界から3000万以上の人々がここを訪れました。1990年代から訪問者数は常に

増加してきました。毎年100ヶ国以上から100万人近くが博物館を訪問しています。その中で最も多い国はポーランド・アメリカ・イギリス・イタリア・ドイツ・フランス・イスラエルです。

この収容所跡への訪問を自らの道徳的義務と考える元首と大勢の政治

家も、収容所の犠牲者を追悼しています。この場所は“人類に対する最大の警告”の1つです。元ポーランド外務大臣と元囚人ヴワディスワフ・バルトシェフスキは次のように述べました。

「アウシュビッツ収容所は個人を追悼するための石や花を供える場所の無い、史上最大の墓無き墓地です。ここでの死者たちは煙と共に空へ消えたので墓が無いのです。それに対して我々には義務が課されました・・・」



写真：オシノ・イェン・ハインツ  
少年交流センター

毎年全世界から百万人が博物館を訪れています。その見学には博物館の公認ガイドを利用できます



## 開館時間

博物館は年中無休です。また開館時間は以下の通りです。

|        |              |
|--------|--------------|
| 12月～2月 | 8:00 - 15:00 |
| 3月、11月 | 8:00 - 16:00 |
| 4月、10月 | 8:00 - 17:00 |
| 5月、9月  | 8:00 - 18:00 |
| 6月～8月  | 8:00 - 19:00 |

上記の時間には収容所跡を見学することができます。元囚人情報事務所、記録管理部、収蔵資料部、図書室・管理部などの勤務時間は、月曜日から金曜日までの7:00 - 15:00 です。ただし祭日を除きます。また休館日は1月1日、12月25日、イースターの初日です。

## 見学のための一般情報

見学時間は各人異なりますが、2ヶ所の収容所跡の敷地と展示の見学にかかる時間は最低約3.5時間と考えられています。又ガイドを依頼する場合には、①一般的な見学（3.5時間）②専門的な見学（約6時間）③2日間の見学から選ぶことができます。

アウシュビッツ博物館への入場は無料です。アウシュビッツ1号とアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所にある建物と展示の見学は可能です。ただしアウシュビッツ1号にある一部の棟（ブロック）は入場禁止になっています。アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所にある殆どの囚人棟への入場は可能です。

それ以外にも収容所から少し離れた所には、以下の重要な4ヶ所の記憶の場所があります。

- ・ アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の北の境界線まで数百mの場所にあり、“赤い家”と呼ばれていた最初に造られた第1ガス室跡
- ・ アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の西の境界線まで数百mの場所にあり、“白い家”と呼ばれていた第2ガス室跡
- ・ 1942年春から1944年5月まで、ユダヤ人・ポーランド人・ジプシーの移送された人々が列車から降ろされていた、



アウシュビッツ1号跡



アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所跡

- アウシュビッツ1号と2号を繋ぐ側線沿いの特設ホーム。（アウシュビッツ1号と2号から約1.5km離れた場所）
- ・ アウシュビッツ収容所の解放前後に亡くなった人々の共同墓地



「アウシュビッツ1号」（A）と「アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所」（B）からある程度離れているが、博物館の管理下である場所

- ・ アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の最初の2つの死体焼却場のガス室があった場所（1, 3）
- ・ 移送された人々が列車から降ろされていた側線（4）
- ・ 殺害されたソ連軍捕虜を偲ぶオベリスク（2）
- ・ アウシュビッツ収容所の解放直前と直後に亡くなった囚人たちの共同墓地（5）



写真：ヤルコ・メンクスフェルト

ユダヤ教の祈祷着。アウシュビッツ1号跡における展示の一部



写真：ワイエスワフ・ジェリンスキ

アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所。ナチス犠牲者の国際追悼記念碑



写真：リチャード・ドマシク

## アウシュビッツ1号跡

アウシュビッツ1号は1940年に設けられた当初は男性用でしたが、1942年には女性用も設けられました。そしてSS隊員による毒ガス・チクロンBを利用した最初の殺害実験、初移送からのユダヤ人の大量虐殺、最初の残虐な人体実

験、大多数の銃殺がここで行われました。本収容所であったアウシュビッツ1号には囚人用の中央監獄があり、全収容所を管理するSS幹部とSSの事務所の殆どがここにありました。ここからSS幹部は収容所の拡大を指示していたのです。

## アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所跡

ナチス・ドイツによって全ヨーロッパから連行された、約100万のユダヤ人の大量虐殺を目的とした設備の殆どは、アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所において建設されました。それと同時にここは、1944年には9万以上の囚人（ユダヤ人、ポーランド人、ジプシー、ロシア人など）が収容され、木造の囚人棟が300以上あった最大規模の強制収容所でした。ここには囚人

の遺灰が捨てられた場所や多くの史跡が現在まで残っています。

膨大な敷地、保護されている数十棟の粗末な囚人棟と破壊され廃墟となった囚人棟跡、13kmを超える収容所の囲い、10kmに及ぶ収容所内の道路と2km以上の線路は、人間の大量虐殺を唯一目的としていたアウシュビッツ収容所の特殊な構造を明確にしています。

## ガイド

収容所跡の見学にガイドをご希望の皆様に、正しい歴史背景の説明と展示案内をスムーズに行う、博物館が認めた資格を持つガイドをお勧めします。ただし団体見学の場合には必ずガイドが必要です。ガイドは英語、クロアチア

語、チェコ語、フランス語、ヘブライ語、スペイン語、オランダ語、日本語、ドイツ語、ポーランド語、ロシア語、セルビア語、スロバキア語、スウェーデン語、ハンガリー語、イタリア語でご案内します。

予約は以下からお選びください。

- ・メール： [reservation@auschwitz.org.pl](mailto:reservation@auschwitz.org.pl)
- ・電話：(+48) 33 843 21 33 / 844 81 00 / 844 80 99 月曜日から金曜日までの7:00 - 15:00、開館時間内のそれ以外の時間帯には(+48) 33 844 81 02へご連絡ください。
- ・ファックス：(+48) 33 843 22 27
- ・博物館内の“お客さまサービス店”で予約に関する全ての手続きが行えます。博物館への関心も高く見学者が多いので早めにご予約ください。ガイドは有料です。

## ガイドブック

見学前に、敷地内の建物や展示に関する簡潔な説明と見学ルートの記事されたアウシュビッツ1号と2号の

地図のある、博物館のガイドブックを購入することができます。それは十数ヶ国語で出版されています。



## 記録映画

チケットを購入した後、見学前や後に、アウシュビッツ収容所がソ連軍によって解放されるシーンやその時助けられた囚人たち、

そして発見されたナチス・ドイツによる犯罪の証拠を撮影した、ソ連軍カメラマンによる15分間の記録映画を見ることができます。

### アウシュビッツ1号・2号間の移動について

アウシュビッツ1号からアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所までの距離は3 kmで、ナチス・ドイツ占領下で囚人の強制労働と死の場所となったドイツ企業の工場や作業場、倉庫・事務所・設備などのあった収容所付属地帯を徒歩で移動することができます。その途中には、収

容所へ移送された人々が列車から降りられSS医師による選別が行われていた側線と特設ホームの跡が残っています。アウシュビッツ1号と2号にはそれぞれ専用駐車場があり自家用車での移動も可能です。またその間を往復するシャトル・バスもご利用いただけます。

「全世界で何百万もの人々がアウシュビッツ収容所の歴史を知っていますが、“そのような悲劇が繰り返されないためには人々の意志が必要である”という意識とその記憶を維持することが、現在最も大切なことなのです。人間こそがそのような悪事を働き、しかしそれを防げるのも人間しかいません。」

(アウシュビッツ収容所の元囚人：  
ヴロディスワフ・バルトシェフスキ)



写真：ヤルコ・マンズフェルト

写真：リディア・フォリチャン

時間は過ぎて行くが、アウシュビッツ収容所の悲慘な歴史に対する関心は薄れない



博物館の住所

Memorial  
**Auschwitz**  
**Birkenau**  
State Museum

PAŃSTWOWE MUZEUM  
AUSCHWITZ-BIRKENAU  
ul. Więźniów Oświęcimia 20  
32-603 Oświęcim, Polska  
tel. (+48) 33 843 20 22  
fax: (+48) 33 843 19 34 / 843 18 62  
www.auschwitz.org.pl  
e-mail: muzeum@auschwitz.org.pl

著者：テレサ・シフィエボツカ、ヤドヴィガ・ピンデルスカ＝レフ、ヤルコ・マンズフェルト

グラフィック・デザインと製版：アグニェシカ・マトゥワ、Grafikon社

印刷所：Grafikon®, Jaroszwice 324, 34-100 Wadowice, tel. 33 873 46 20, fax 33 873 46 22, e-mail: biuro@grafikon.com.pl, www.grafikon.com.pl

パンフレットに掲載されたグラフィック資料：

ポーランド国立アウシュビッツ博物館の収蔵資料からの「アウシュビッツ＝ビルケナウ その歴史と現在 (Auschwitz-Birkenau. Historia i teraźniejszość)」；  
又一部の資料は、リシャルド・ドマシク、リディア・フォリチャン、ヴォイチェフ・ゴルゴレフスキ、ネル・ヤストシェンビョフスカ、ヘンリク・マカレヴィチ、ヤルコ・マンズフェルト、スタニスワフ・モモト、ラファウ・ピュロ、ミェチスワフ・ステツ、ヴィェスワフ・ジェリンスキ、オシフィエンチムの国際青少年会合の家、モスクワの第653高等学校の好意で掲載されました。

© 2010 Państwowe Muzeum Auschwitz-Birkenau

# アウシュビッツ収容所史 年表

## 1939年

- ・ **9月1日** ナチス・ドイツのポーランド侵入。第二次世界大戦が勃発する
- ・ **年末** ポーランド系住民の大量逮捕による、上シレジアとザグェンビェ・ドンブロフスキェの刑務所の充満状態を解決する目的で、SSと警察のヴロツワフ司令部によって強制収容所の建設構想が生まれる

## 1940年

- ・ **4月27日** 数々の建物の視察後、SS最高司令官ハインリッヒ・ヒムラーは、オシフィエンチムのポーランド軍の砲兵隊の兵舎として使用されていた場所に、当時「アウシュビッツ」と名付けられた強制収容所の建設を命じる
- ・ **6月14日** ナチス・ドイツの幹部命令で、数人のユダヤ人を含む合計728人のポーランド人政治犯がアウシュビッツ収容所へ初移送される。この日初めてアウシュビッツ収容所が活動を始める。そして1940～45年の間に、27万人の男性を含む合計約40万人がアウシュビッツ収容所に登録される
- ・ **6月19日** 大量虐殺の目撃者を排除し、囚人の外部との連絡や脱走を防ぐために、初めて現地住民が退去させられる。2回目はアウシュビッツ収容所拡大計画に沿って行われる。オシフィエンチムとその周辺から少なくとも5000人のポーランド人が強制退去させられる。その上オシフェンチムのユダヤ系住民約7000人は付近のゲットーへ移送される。その後現地の8村は破壊され、オシフィエンチム市内そしてアウシュビッツ収容所と隣接していた100軒近くの家屋が取り壊される

- ・ **7月6日** 最初の囚人タデウシ・ヴィエヨフスキが収容所から脱走する。アウシュビッツ収容所が存在する間、移送された囚人100万人以上の内数百人が脱走を試みる。その大多数はポーランド人・ソ連軍捕虜・ユダヤ人である。しかし実際に脱走に成功した者は150人にも満たない
- ・ **秋** ポーランドのレジスタンスは、アウシュビッツ収容所に関する情報をロンドンのポーランド亡命政府に伝える
- ・ **11月22日** 最初の銃殺が行われる。その犠牲者は40人のポーランド人である

## 1941年

- ・ **3月1日** SS最高司令官ハインリッヒ・ヒムラーが初めてアウシュビッツ収容所を視察する。そして収容所の拡大及び工場建設用に、囚人1万人をIGファルベン社へ派遣するように命じる
- ・ **4月23日** 囚人の脱走の仕返しとして、収容所長ルドルフ・ヘスは初めて囚人10人の餓死刑を執行する
- ・ **6月6日** チェコからの政治犯の初移送が行われる。ポーランド人以外の移送者がアウシュビッツ収容所に到着し始める。
- ・ **9月3日** 初めて毒ガス・チクロンBを使用した大量虐殺が行われる。そして約600人のソ連軍捕虜とポーランド人250人が殺害される
- ・ **秋** 収容所の幹部は、アウシュビッツ1号に最初のガス室を建設する
- ・ **10月7日** アウシュビッツ1号で、ソ連軍捕虜用の収容所が建設される破壊されたブジェジンカ村で、アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の建設が始まる

- ・ **11月11日** 「死の壁」の前で初めて死刑が執行され、ポーランド人151人が銃殺される

## 1942年

- ・ **年頭** ガス室を利用したユダヤ人の大量虐殺が始まる
- ・ **3月** スロバキアから2万7000人、そしてフランスから6万9000人のユダヤ人のアウシュビッツ収容所への移送が始まる
- ・ **3月1日** アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所が活動を始める。
- ・ **3月26日** アウシュビッツ収容所が存在する間に登録された、女性約13万人の内の最初の2000人が移送される
- ・ **3月～6月** アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所で仮設ガス室の使用が始まる
- ・ **春** アウシュビッツ1号と2号の間に建設された、連行されたユダヤ人・ポーランド人・ジプシーなどが列車から降ろされた、いわゆる「特設ホーム」の使用が始まる
- ・ **5月** ポーランドから30万人、そしてドイツとオーストリアから2万3000人のユダヤ人のアウシュビッツ収容所への移送が始まる
- ・ **5月4日** アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所でSS隊員が初めて選別を行う。選別された人々はガス室で殺害される
- ・ **6月10日** アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所で、懲罰班の囚人約350人が反乱を起こし集団脱走を試みる。その内の7人が脱走に成功するが、300人以上が殺害される
- ・ **7月** オランダからアウシュビッツ収容所へ6万人のユダヤ人の移送が始まる
- ・ **7月** ポーランドのチェシン市付近にあるゴレショヴォ（ドイツ名はゴレシャウ）のセメント工場に隣



接するゴレシヤウ収容所が、50ヶ所近く設けられるアウシュビッツ収容所の副収容所のネットワークの一つとして建設される

- ・ **7月29日** アウシュビッツ収容所のガス室で行われるユダヤ人の大量虐殺に関する情報が、初めてドイツから連合軍に伝わる。その情報元は、ドイツの実業家で反ナチ思想家のエドヴァルト・シュルテである。1940年の秋を皮切りに、アウシュビッツ収容所の状況に関する報告は定期的に連合軍に伝わるようになる。その殆どは、収容所内とその周辺で活動しているレジスタンスと常時コミュニケーションを維持していた、ロンドンのポーランド亡命政府に伝えるものである
- ・ **8月** ベルギーから2万5000人、そしてユーゴスラビアから1万人のユダヤ人のアウシュビッツ収容所への移送が始まる
- ・ **10月30日** IGファルベン社が建設する合成ゴム工場に隣接して、後にアウシュビッツ3号・モノビツェ収容所と名の変わるブナ副収容所が設けられる。1942～44年の間に、アウシュビッツ3号・モノビツェ収容所の副収容所は47ヶ所も建設される。そこへ連行された人々は、主にドイツの工業企業のために強制的に働かされる
- ・ **10月** チェコのモラヴィア地方から4万6000人のユダヤ人のアウシュビッツ収容所への移送が始まる
- ・ **12月** ノルウェーからユダヤ人が初移送される。2回に分けられ合計700人近いユダヤ人が運ばれる
- ・ **12月13日** 約5000万人のスラブ民族（ポーランド人、ロシア人、ベラルーシ人、ウクライナ人など）の隔離と根絶、そして第一にドイツ人を中東欧のポーランド領土に移住させることを目標とした、ナチス・ドイツによる「東方植民地化計画（Generalplan Ost）」実現の第一段階として、

ザモシチ地方からポーランド人を初移送する

- ・ **年末** SSの医師たちは、囚人に対する断種実験を始める

## 1943年

- ・ **2月26日** アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所に、ジプシー用のいわゆる「家族収容所」が設けられる
- ・ **3月** ギリシャから5万5000人のユダヤ人のアウシュビッツ収容所への移送が始まる
- ・ **3月22日～6月25日** 収容所の幹部命令で、アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所で4つの死体焼却場（ガス室と焼却炉）が稼働し始める
- ・ **6月7日** クルップ社のドイツ人従業員が、収容所が賃貸した工作室で労働を始める。アウシュビッツ収容所の建設には数百社のドイツ企業が参加し、その中のIGファルベン社やシーメンス社などは収容所の囚人を奴隷のように利用し多大な利益を得る
- ・ **7月19日** 人々の前で最大の処刑が執行される。数人が脱走して外部の民間人と連絡を取ったため、12人のポーランド人が絞首刑となる
- ・ **9月9日** アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所で、テレジンのゲットーから移送されたユダヤ人用に「家族収容所」が設けられる
- ・ **10月** イタリアから7500人のユダヤ人のアウシュビッツ収容所への移送が始まる

## 1944年

- ・ **5月** アウシュビッツ収容所の上空を通過する連合軍の航空機が撮影する。その連続写真にはガス室そして焼却炉の煙がはっきりと写っている。8月には、アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所から数キロメートルしか離れていないIGファルベン社の合成ゴム・液体燃料工場へ、アメリカとイギリスによる爆撃が始まる

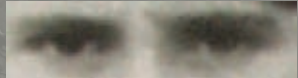
- ・ **5月16日** 移送された人々をアウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所の第2と第3死体焼却場のガス室の前で列車から降ろすための側線が完成する。ハンガリーから43万8000人のユダヤ人がアウシュビッツ収容所へ移送される
- ・ **7月10～12日** テレジンから移送されたユダヤ人用の「家族収容所」が取り壊される。ナチス・ドイツは約7000人のユダヤ人をガス室で虐殺する
- ・ **8月** リッツマンシュタット（ポーランドのウッジ市のドイツ名）のゲットーから、6万7000人のユダヤ人がアウシュビッツ収容所へ移送される
- ・ **8月2日** ジプシー用の「家族収容所」が取り壊される。3000人近くのジプシーがガス室で虐殺される
- ・ **8月12日** ワルシャワ蜂起が勃発し、大量逮捕された1万3000人のポーランド人のアウシュビッツ収容所への移送が始まる
- ・ **10月7日** 特別労働班の暴動が起こる。SS隊員3人と、殺害された人々の遺体を焼却炉で燃やす作業を行っていた特別労働班のユダヤ人の囚人450人が命を落とす
- ・ **11月** ガス室でのユダヤ人の大量虐殺が中止される

## 1945年

- ・ **1月6日** ドイツの軍法会議で死刑を科された約70人のポーランド人の最後の銃殺が執行される。特別労働班の暴動の準備を助けたと訴えられ死刑を科されたユダヤ人女性4人は、人々の前で絞首台に立つ最後の囚人となる
- ・ **1月17日** 「死の行進」が始まる。SS隊員はアウシュビッツ収容所の囚人6万人近くの移送を始める
- ・ **1月21～26日** ナチス・ドイツは、アウシュビッツ2号・ビルケナウ収容所のガス室と焼却炉を爆破する
- ・ **1月27日** ソ連軍がアウシュビッツ収容所を解放し、7000人の囚人が救出される

M e m o r i a l

Auschwitz



Birkenau

S t a t e M u s e u m



# アウシュビッツ・ビルケナウを 記憶の場所そして博物館とし維持するために 皆様からのご寄付をお願いいたします

アウシュビッツは世界中の人々の心に絶えず忠告する史実です。  
ナチス・ドイツによって造られたその強制・絶滅収容所の史跡は、  
人類史上最大の悲劇を象徴しています。

1940～45年の間にナチス・ドイツは、100万人を超えるユダヤ人の他に、  
数万人のポーランド人・ジプシー・ソ連軍捕虜など大勢の人々  
を虐殺しました。

敷地と建物を含むアウシュビッツの史跡と共に、犠牲者に関する記憶を  
維持するためにも、皆様からのご寄付をお願いいたします。

寄付金は下記の口座番号をお願いいたします。

Bank Pekao SA oddział Bielsko-Biała

Bielsko-Biała ul. Grunwaldzka 40a

IBAN: PL15

Konto: 1240 1170 1111 0000 2418 5907

SWIFT: PKOPPLPW

ご協力ありがとうございます！

